

『余地』

～相談業務を楽しむ方法 26～

＜アンパンと牛乳＞

杉江 太郎

～よく見る光景～

警察官が張り込みをするときに、欠かせないものと言えば、アンパンと牛乳である。張り込みをしているときに、遅れてきた同僚がアンパンと牛乳を差し入れするという光景はテレビドラマではよく見る光景である。グーグルで「アンパン、牛乳」で検索すると、そのことを考察する記事もある。警察官が実際に張り込みをしているのかどうかは知らないが、仮にしているとしても、その最中にアンパンを食べて牛乳で流し込むことはないだろう。それこそドラマの見過ぎである。福祉の現場でも、張り込みとまでは言わないとしても、例えば、誰かの帰宅を待つときや、長期間出会えていないような家族に出会うために、家の近くで様子を伺うことはある。今回は、張り込みについて、さらに実際に張り込みをするにあたって、アンパンと牛乳が相應しいものなのか個人的な体験も交えて書いていきたい。

～張り込み方を思案する～

張り込みの方法について、警察のマニ

ュアルがあるのかどうかはわからない。とある法律事務所のホームページでは、張り込みについて「複数人のチーム制で行う」「目的を達成するまで続ける」というようなことが書かれていた。福祉の現場では、そこまですることはないだろうが、やはりいくつか気にしておくポイントはあるように思う。まず、何処で張り込むのかということである。ドラマの中では、近くのビルの屋上や、車の中などで張り込みをする場合が多い。まずは、車を利用しない場合について考えたい。実際のところ、私有地に入って張り込みをすることは、不法侵入などの犯罪になる可能性があるのではいけない。警察は、管理者に許可を得ているのかもしれないが、福祉の立場でそのような許可を得ることは難しいだろう。そうすると、私有地ではなく、公道を利用する必要がある。当然、家の目の前にいるわけにはいかないので、家の玄関等が見える、誰かの所有地ではない、相手からも見つかりにくい場所を見つける必要がある。良く電柱の陰から見張りをするということがあるが、

そのあたりが理由であろう。そのときに気をつけなければいけないのが、日当たりである。ただでさえ怪しいのに、日傘をさしながら待機するわけにはいかない。仕事なら我慢しろよと言われるかもしれないが、夏の日差しを受けながら外にいることは熱中症に繋がる。ある程度影がある場所を探したい。ただ、一箇所にとどまり続けると、周囲から見たときの怪しさが増してしまう。複数の場所があると少しは怪しさが紛らわせるかもしれないがそんなにうまくいくことはないだろう。次に、車の中で待機する場合である。これも前記した通りだが、私有地に停車することは絶対にしてはいけない。理想は、学校や市役所などの公的機関に許可を得た上で停めて、ちょうどそこから目的の場所が見えるというのが理想ではあるが、そんなにうまくいくことはない。家が見渡せる公道に停めることが望ましいが、家が見渡せるということは、相手から見られる可能性があるということである。また、車を利用する場合、エンジンをどうするかという問題もある。エコのことや、騒音のことを考えると、エンジンを切るほうが良いだろうが、これもまた気温との戦いである。暑い車内で長時間過ごすことは命にも影響する。とは言え、同じ場所でエンジンを掛け続けることの弊害も大きい。車で張り込みを行う場合、ある程度、車を停めるポイントを確保しつつも、移動を繰り返しながら行うほうが良いの

かもしれない。ただ、どちらにしても、怪しいということに変わりはない。近隣から通報される可能性も否めないのも、そのための、本人確認ができる職員証は常に携帯しておく必要がある。怪しまれない工夫という点で言えば、例えばテレビなどでは、警察が宅配便の格好をしてチャイムを鳴らす場面があるが、怪しさを軽減するために、業者を装いたくなる気持ちもわからなくもない。私が考えたオススメは、作業服にヘルメットで電気工事の人を装う格好である。実際にしたことはないが、その格好ならば、家の周りを歩いていても、電線の方を見るなどしておけば、その地域に溶け込めるかもしれない。(するかしないかは自己責任で)

～アンパンについて～

張り込みは数分で終わることもあれば、その目的によって、数時間に及ぶこともあるだろう。当然、お腹が空くこともあると思う。そんなときにお腹を満たすのにアンパンが適しているのか考えていきたい。例えば、これがクリームパンだとどうだろうか。張り込みをしている際に対象としている人が家から出てきたとする。後をつける等の行動が必要になった場面で、クリームパンを食べていたとしたら、そのクリームパンを急いで食べたり、袋にしまってポケットに入れたりという作業が必要になる。その際、クリームパンの

中身が飛び出してしまうかもしれない。また急いで食べることで、口の周りにクリームが付いてしまう可能性だってある。その点、アンパンは、クリームパンと比べると、中身の流動性がマシなため、食べやすいのではないだろうか。では、ジャムパンはどうか。ジャムパンもアンパンと比べると、食べた際の口の周りのベタつきやすさなどがあるので、食べにくいのではないだろうか。そんなことを考えると、アンパンが最も適したパンのように思えてくる。傷みやすさ、カロリー、お腹への溜まり具合、疲れたときの甘みなど考えたときに、アンパンにまさるものはあるだろうか。カレーパンはもっての外である。口にカレーがつくし、服にもカレーがつくかもしれない。カレーは刺激物なので、お腹の具合にも影響しやすい。やはり、適したパンはアンパンである。

～では牛乳は？～

上記のアンパンの考察で言えば、牛乳は、お腹を下す可能性があり、傷みやすさもあり、さらに一度開けると、蓋を出来ないという点で、外で飲むには適しているとは言えない。では、適した飲み物は何か。形状で言えば、ペットボトルなどの蓋が出来るものが望ましいだろう。また、トイレに行ける環境なのかにもよるが、もしすぐに行ける環境がないのであれば、利尿作用の高い飲み物は避けるほうが良い。ただ、熱中症のことを考えると、ある程度

の水分は必要である。お茶、スポーツ飲料水、コーヒーなどがまだ適していると言えるのではないかな。

～電柱の下タバコ～

警察が電柱の影で張り込みをしているときに、タバコを吸いながら、その吸い殻が足元に溜まっているという、それだけの時間を張り込みに要したという表現なのか、そうしたシチュエーションがドラマなどではある。当然、法律に遵守して行う必要があるため、路上喫煙や、ポイ捨ての観点からそのようなことは、するべきではない。というかしてはいけない。

～くだらない思考だけど～

ここまで、読まれた方の大半は、くだらないことを書いているなと思われるのではないだろうか。まさにそう、くだらないことを書いているのである。私の職場は、福祉機関と言いながらも、司法対応や危機介入が求められるようになってきた。その中で、いわゆる張り込みをしなければいけないこともあった。しかし、張り込みをする前提で職員の配置はされておらず、そのことをするだけのノウハウや積み上げもない。求められることは日々変化しており、今までにあった前提だけで職務をこなし続けられるような状況でもなくなりつつあるが、そうした中でも、目的のために最善の一手を考え、目の前の安全のためにしなければいけない

いことがある。そうしたときのために、アンパンと牛乳のように、くだらない思考をであったとしても、巡らせておくことが柔軟性を生み、選択肢の幅をもたせるのではないだろうか。